



進まなん

学
校
だ
よ
り

新発田市立七葉中学校

新発田市上館乙84番2

電話 0254-22-3524

令和3年7月30日 第28号

1 学期終業式 校長式辞

「成長した自分を知り、違う器を目指す」 校長 野澤 一吉

生徒のみなさん、そしてみなさんを支えてくれた保護者のみなさん、先生方によって、全員揃って、今日終業式を迎えることができました。たいへんうれしいことです。

今日は、1学期最後の日です。人は、節目の時に自分を振り返り、次のスタートに備えます。これから、一緒に、今の自分を振り返ってみます。

ここに3つの容器が(理科の実験で使うメスシリンダー)があります。この容器を使ってこれから、自分のことを振り返ります。一番左の容器が、4月の自分とします。容器が自分の全部の力とすると、濃い部分が発揮している力とします。みなさんは、4月より、学習やいろいろな活動をしました。学力や体力など、新しく「分かったこと」や「できたこと」が多くありました。4月よりも多くの力を発揮してきました。その発揮した力はどのくらいですか。真ん中の容器ですか、それとも一番右ですか。

真ん中の容器：自分の力を、ある程度発揮した

右の容器：自分の力を、ほとんど発揮した

ここで考えてほしいことがあります。

それは、成長したことには、「分かったこと」や「できたこと」以外にもう一つ、新しい「考え方」があります。それは、物事のとらえです。これは、自分1人では付けられない力です。みなさんは、仲間や先生方、校外の人など、多くの人と交流してきました。自分とは違う考え方に触れる機会がありました。その機会から、新しい「考え方」を身に付けた人は、これまでとは違う「行動」で自分を表現したはずです。



さあもう一度振り返ります。行動を含めて、今の自分の姿はどれですか。

私自身のは、真ん中に近いです。もしかすると、4月と比べると同じくらいかもしれません。理由は、休まず勤務できたことが○、英会話の力が×、生徒のみんなが主体になる学校をつくるのが道半ば△。

ところが、私は、もう一つの容器を用意しています。これです(一番右の容器)。この容器は、最初と比べて高く大きいです。自分の力を発揮した人で、もはや、4月の自分以上に到達している人がいるかもしれません。新しい自分に挑んでいる人がいるかもしれません。その人は、この容器にたどり着こうとしています。

このように「器」を変えると、広い世界があることに気付きます。これまでとは違う新しい自分に挑もうとしていることが、人としての「器」を変えることだと考えます。

みなさんは、持っている力を発揮した人も不十分な人も、必ず、自分も知らない力を秘めています。それが人です。新しい「器」の姿は、はっきりとは見えないかもしれません。しかし、何かこれまでとは違うことに挑むことが、「器」を変える機会になるかもしれません。1学期に成長した自分をしっかりと理解し、2学期にたくさんある活動を通して、これまでとは違う「器」を目指してください。